

第3期国分寺市公民館運営審議会 令和元年度第3回定例会 要点記録

日 時 令和元年10月11日（金） 午後2時～午後4時

場 所 並木公民館会議室

出席者

■委 員 佐藤委員長・田中副委員長・浅見委員・近藤委員・畑中委員・高塚委員・新委員・戸澤委員・今野委員・大内委員（欠席2名）

■職 員 前田公民館課長兼本多公民館長・増本恋ヶ窪公民館長・久保光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・野中本多公民館事業係長

■傍聴者 なし

1 連絡事項

（1）配布資料確認

（2）第1回定例会要点記録確認

委員長：修正等があれば事務局へ。

2 報告事項

（1）令和元年国分寺市教育委員会第7回・第8回定例会

（2）国分寺市議会，厚生文教委員会

課 長：資料1に基づき説明

3 協議事項

（1）並木公民館の現状について

館 長：資料に基づき，並木公民館について説明。

委員長：緑の多い環境として，農業体験講座は国分寺市を代表する取り組みとして，第1期答申でも注目した。そのほかに陶芸や，お雛子の復活など和気あいあいと利用者が楽しんでいることが見受けられる館であると思う。

委 員：並木の運営サポート会議で最近出ている話題を紹介したい。

アクセスの悪さを除いて，環境はいい。陶芸小屋や農地がある。農地は減ってきているが，農家の人を持つ昔からの伝承を伝えてくれ，知識や体験を与えてくれるのは恵まれていると感じている。どうしたら公民館に関心を持ってもらえるかという第1期からの課題については，どこの公民館も同じだろうと思うが，参加者が増えない，グループの高齢化など，何度話しても結論は出ないのだが，関心のある方は何もしなくても来ている。では関心のない人に向けてどうするのかということまで話が出ているのは魅力のある講座，イベントである。これを出すのが運営サポート会議なのか，職員なのか。お雛子にしても芋ほりにしても，ちっち

やな話題を大きくしていけば、未来の公民館利用者が来てくれるのではないかという話をしている。

委員長：利用者の中心は高齢化しているが、学芸大の学生や子どもたちが参加していることで多世代に感じている。学芸大との関係はしっかりできているのか。

委員：お囃子を始めるにあたって学芸大にそう言ったグループがあることを聞いて協力をお願いし、それを通じて定例的に公民館のイベントなどにも手伝ってもらっている。

委員長：地元に近い高校生・大学生が、単に受講ではなくサポートやボランティア、講師などになれるのがいい。近くに津田塾大があるが、そことは連携はないのか。

委員：以前は子どもと何かやっていたのではなかったか。

館長：私が着任した時にはすでに関係は切れていたようだ。今後考えていきたい。

委員長：あそこは英語が強いところなので、国際化・多文化共生などでぜひ関係を作っていってほしい。

委員：質問だが、ここは他の館と違って、公民館を通過して図書館に入る構造になっているが、図書館利用者に公民館の情報は伝わっているのか。

館長：2階に行く階段にポスター掲示や、子どもまつりなど図書館と連携を取って行っている事業はある。事務室にいと2階に上がっていく人の気配は感じられる。

委員長：国分寺市は全館が図書館併設というメリットを持っている。図書館利用者は公民館利用者とは違う人もいるので、どう公民館に呼び込むかは考えていく必要がある。

(2) 前期答申の感想について

委員長：前期答申に他市公民館が注目している。後ほど報告があるようだが視察も来るようだ。前期委員が知恵を絞って作ったものだ。新しい委員も読んでいただいたと思うが、これについて少し意見交換していきたい。

委員：未利用者への取り組みについて、今までと違う切り口を考えていく必要があるのか。未利用者は忙しくて公民館に来れないのか、それとも必要としていないのか。そういったことを分析しながら切り口が必要かもしれない。運営サポート会議も今までと違う構成メンバー、例えば大学生などが入るといいかもしれない。そういった新しい視点を入れ、今までにとらわれないような取り組みを考えていくのが解決に必要なのではないか。

委員：一般の人が関心の高い、外国語やダンスなどを平日の夜間に行うという方法も考えられると思う。体験でもいい、経済的な負担なく興味を持つようなこと、ターゲットを絞って行うことで未利用者の来館のきっかけになると考える。昼間の時間帯ではどうしても高齢者や自由業の方などしか来れない。さらに広報活動として人の集まる駅やカフェなどにチラシを置くことも検討したらどうか。

委員：本多は市民グループがほぼ飽和状態で、特に音楽グループは部屋がなかなか取れない。高齢化はあるが若い人の加入など、新陳代謝も行われていると感じている。答申には講座などへの視点が中心で市民グループの活動についての視点が弱いと感じた。しかし多くのグループが活動している割には公民館の主催講座への参加に結びつかない。公民館祭りへの参加も少ない。私も20年使っているが、運営サポート委員になったここ数年で、ようやく公民館事業に関心を持った。面白いものはやっているのだが、チラシだけでは魅力は伝わらないし、自分に必要なものとしての認識を持っていないのではないかと。必要な人に情報が届いていない、宣伝の仕方に工夫はまだまだ余地はある。

委員：いまPTAの問題は、新聞などでも否定的に取り上げられている。子ども・親・先生、学校が居心地よくなるにはどうしたらいいかを公民館から考えられないか。前P連選出委員が提起したことを、どうつないでいくか。自分に何ができるかを含めて考えたい。また恋ヶ窪のエレベーターや、並木のトイレなどの公民館の環境整備についても考えたい。

委員：5館共通の企画として人生100年時代をテーマとした講座を考えたが、先ほどから出ているように広報がうまくいっていない。人とつながろう、何かを始めようと自ら考えている人は、何もしなくても来てくれる。そしてつながりをどのようにキープするのか。催しの内容の重要性、運営サポート会議で出た些細な話でも、職員がくみ上げて実現して欲しいと思う。

委員長：100年時代については各館で取り組み始めたが、5館共通という前期の意思是、強く打ち出していてもよかったと思う。

委員：私の公民館利用のきっかけは、家庭が転勤族だったため、子どもたちが地域に溶け込むために母親が地域に入らないとという意識だった。国分寺市に引越してきて、新田開発やまちづくり、多文化共生など様々な関心のある講座に出会った。地域に誇れるものがたくさんある地域を生かして欲しい。防災講座に中学生が参加したり、日本語学習の外国人が公民館祭りに参加したり、とってもいいことをしていると思う。

委員長：光公民館の運営サポート会議に参加している野元先生は社会教育における防災の取り組みの第一人者で本も多数執筆されている。野元先生のおかげで国分寺市の公民館の防災講座はとても充実していると思う。若

い人への切り口としても防災という視点は非常に重要だと感じている。
委員：いろいろな機関が市民に参加してもらいたいと考えている。人材不足で取り合いになっている。そうならないために連携が必要、公民館が講座をやるにあたり、関係するところをいかに巻き込んで次につなげていくのか。100年時代の講座だったら包括地域センターなどと連携が必要と、こちらでもあちらの会議にも言っている。しかしそれに対し会議では賛同を得られるのに結果的には独自でやっている。一つでもやってみればそれをきっかけに広がっていけると考えている。

さらにどうしても次につなげるということ意識しすぎて講座をやる自主グループを作ろうとしてしまうが、興味のあること、楽しいことなら勝手にグループはできる。その楽しくやっているところに地域貢献してくれと言っても難しい。興味を持っている人をつなぐコーディネーターの役割をし、いかに市民が楽しんでもらえるかを考えなければいけない。

国立市の社会福祉協議会が「国立地域カルタ」を作ったと聞いたので調べたところ、制作に3年ぐらいかけて、各小学校に読み札を振り分けて依頼し、それに合わせて絵もすべて公募したとのことだった。それをさらに普及するためにさらに取り組むと聞いている。長く時間のかかることだと思う。

委員長：協働ありきではなく、一人一人自然に手が広がっていくプロセスをどうやっていくのか。やはりこれは学びの基本だと思う。

前期答申にある「かるた」を公民館はどう考えているのか。

課長：各館に差異があるので、館長のなかでどうするか話し合っている。

委員長：国立は動いているのか。

委員：すでに普通のカルタと大きなカードのカルタを作成しており、市民祭りやかるた大会を開催し、市民に普及してきているようだ。

課長：かるたの作成だけではなく百人一首などを活用したかるた大会などを検討している。

副委員長：市として作ってみようかという意思があるのか。実行委員を作るにしても、つぶされるようでは無駄になる。

委員長：予算は大きくも小さくもできると思う。しかし確実に大きいプロジェクトになると思うので、及び腰になってしまいそうだ。

副委員長：予算がかかるだろうから我々が勝手に動くわけにはいかない。市なり教育委員会に応援してもらえる体制を作ってもらわないと難しい。

委員長：合意プロセス作りにまだ着手できてないようだ。しかし葛飾の例で分かるように効果は計り知れない。地域ならではの読み札が多世代で熱中できるほど面白い。来年度踏み出せるかどうか、答申を受け止めてほしいと思う。国分寺市は歴史があるから面白いと思う。ふるさと文化財課

などと連携しながらぜひ検討してほしい。

委員：PTA 連合会選出きょうどう学習委員会委員長として今期公運審に参加している。答申にある公民館との共催講座については今後も報告をさせていただきたい。きょうどう学習委員会はP連の他の専門委員会のように市へ要望を伝えるのが目的ではなく、主体的学習を行うことを目的にしているが、いろいろな課題はわかっているのだが、どう学習してよいのかわからない。そこで前期委員が公民館のネットワークや講座運営のノウハウを活用しないかと提案してきた。そこで今回、今年度テーマとして上がった「新学習要領」「不登校」「自己肯定感を高める」の中で「自己肯定感」のグループの会員たちが進め方を迷っていたので、本多公民館の協力を得て学習会をすることになった。会員からは目指すところはまだ見えないが、道筋ははっきりとしてよかったと好評を得ている。また理事会の方からは継続性や自主性の保持が課題だと考えている。引継ぎをどうやるか、会員たちが公民館に丸投げにならないようにするためにはどうすればいいかなど、最終的にはこの講座にかかわった会員が公民館にかかわっていくのかを考えていきたいと考えている。

昨年度市の違う会議の委員をさせていただいたが、そのテーマが「家庭を取り巻く地域を考える」と言っても、不登校・ひきこもりなどの問題なので家庭が地域から孤立してしまっていることについて、自治会や学校との連携は話題に出たが、公民館と連携というのは出てこなかった。地域を考えるにあたって公民館が出てこないのは残念だ。

委員長：前期委員からうまく引き継いでいただき、重要な一歩が始まっているが課題は根深いようだ。未利用者、現役世代の生活の感覚の中に公民館は名前すら出てこないという、やってる方からすると大変ショッキングな話だ。この辺がやはり都市型の特徴というか、自分の必要なものだけを選択していく。そういった中PTAとの協働について、重要な取り組みが始まったと思う。

副委員長：未利用者、夜間の活用、広報の充実、様々な意見が出たが、利用者が楽しんで口コミで宣伝してもらうのが一番いいのではないかと。利用者が「公民館が楽しいよ」と胸を張って言えるようになることが必要。はたから見ていると、職員が努力したおかげで講座の内容が魅力のあるものとなってきており、その分講座参加者は増えてるよと感じる。さらにこれから必要なこととして、地域課題を取り上げるにあたり、地域にいる人材や地域の大学生をスタッフに巻き込み、公民館側に取り込んでいく。新しい人を待っているのではなく呼び込んでいくようにして未利用者の獲得を方向付けていくことが重要であると考えている。

五館運営サポート会議連絡会でかるた会をやろうという意見が出ているのだが、調べてみると小学校によっては百人一首を教材に取り上げて

いない学校もあるようだ。そうするとかるた会の企画もなかなか難しい。5館の共通テーマとして運営サポート委員も一緒になって動かないと、大変ではないかと考えている。

委員長：皆さんの意見を伺っていて、切り口は違うが、次につながることに関心を寄せているのは重要な手掛かりになると思う。国分寺市公民館が積み上げてきた連携・協働を生かすことを考えるのが必要。また興味のあることを取り上げること、人はそれぞれ興味が違うが、これも蓄積があって、防災や農業など、地域性や利用者層によって流れがあると思う。PTAについては組織的な問題があるように見受けられるが、それをどう取り組んでいくか、PTA全体の活性化につながっている。テーマも不登校や自己肯定感などリアルなテーマが出ているので、会員の問題意識が出ていると思う。やる気のある人、PTAや社会福祉協議会や自治会などの興味を引く仕掛けをどう作っていくか、可能性のある話だと思っている。

忙しい未利用者の人にどうアプローチをしていくか、各館今年度サードエイジなどへ働きかけを行っているが、答申としてはもう少し若い世代、先ほど意見があったのは趣味的分野、技能的分野、ボランティア活動などを広げていくというもの。防災はそういったことを広げる切り口になる。「講座の成果を地域還元していく」という機械的な考えではなく、若者を巻き込むことでの有用感を与えられることができる。忙しい人も社会に関わるという切り口が、公民館がどう作れるか。充実した講座、生きるために必要な講座を公民館が提供できるのか。

社会教育不要論が日本中にある中で、ぜひ力のある自治体が発信してほしい。

(3) その他

事務局：今後の予定について、今年度今期は6回の定例会を予定しています。第5回と6回の開催日を決定してほしい。

もう一点、昨年管外研修で伺った長野県松本市職員研修の依頼がありました。テーマは前期答申です。日程は12月12日13日の2日間で向こうの公民館職員20数名が来ます。内容はこれから詰めるのですが、先方からぜひ答申を出した委員の皆様にお話が伺いたいと要望がありました。そのため12月12日(木)午後にご予定をさせていただきたい。

委員長：松本市職員は大変意欲的なので、ぜひ予定してほしい。

日程調整の結果、第4回11月20日(水)午後1時30分もとまち、第5回1月24日(金)午後2時光、第6回2月13日(木)午後2時本多、と決定する。研修については次回以降に決定。

以上で第3回定例会を閉会する。